

科目名	学科	学年	単位	教科書（発行者）	副教材等
世界史A	国際交流科	2	2	明解新世界史A新訂版（帝国書院）	明解世界史図説 エスカリエ（五訂版）（帝国書院）

科目の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 世界の歴史と文化の展開を各時代の国際環境や地理的条件と関連づけて多面的・多角的に考察し、理解する力を養う。 世界の歴史の展開に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追究する態度を養った上で、国民としての自覚と国際社会に生きる日本人としての自覚を促す。 世界の歴史の基本的な事項を理解した上で、学習内容と現代の諸事件や課題との関連性を意識させ、現代及び将来の課題を多角的・客観的に考察し、公正に判断していく力を身につけさせる。 歴史学習における資料の重要性を理解させるため、資料を中心とした学習を行う。
---------	--

学期	月	単元・題材	学習項目	学習のねらい（到達目標）
一	4	古代から中世諸地域世界と交流圏	1 人類の始まり 2 四大文明 3 東・南・西アジア世界 4 ヨーロッパ世界	・人類の登場と、農耕・牧畜による食料生産を基礎にして、人類が文明を築き、歴史時代へ入っていく過程を理解する。 ・東アジアの封建制・南アジアのカースト制・仏教の成立・西アジアのイスラーム世界の成立・ギリシャローマ文明の伝統・キリスト教の発展などを通して、諸地域の特質や交流を学ぶ。
	5	一体化に向かう世界	1 ヨーロッパのめざめ 2 大航海時代がはじまる 3 ヨーロッパの国づくりと国際関係 4 アジアの交易に参入するヨーロッパ	・ルネサンスと宗教改革、新航路の開拓、主権国家体制の成立などにふれ、16世紀の世界の一体化への動きと新たなヨーロッパの枠組みとなった主権国家体制について理解する。
	6	ヨーロッパとアメリカの諸革命	1 イギリスから独立するアメリカ 2 ヨーロッパ近代化の出発点 フランス革命 3 ナポレオンのヨーロッパ支配 4 大西洋を越えて広がる革命の波 5 産業革命という大変革の開始 6 資本主義の発達と社会主義運動の発生	・産業革命・フランス革命・アメリカ諸国の独立・拡大する貿易活動などを通して、西ヨーロッパとアメリカに産業社会が成立し、市民社会及び国民国家の形成が進行したことを理解する。
	7			
二	9	自由主義・ナショナリズムに進展	1 “世界の工場” イギリス 2 国民国家の発展と列強の世界進出 3 アレクサンドル2世とロシアの改革 4 南北戦争と戦後の発展	・19世紀後半のヨーロッパ・アメリカ社会を通して、自由主義と国民主義が進展していくようすとアメリカ文明の内容について理解する。
	10	東アジアの大変動	1 中国と日本の近代化 2 アジアにおける工業化と日清戦争 3 東アジアをめぐる国際関係 4 孫文が導いた辛亥革命	・アヘン戦争やアロー戦争などの西洋の衝撃により、朝貢体制を中心とする伝統的な国際秩序が崩壊していく過程を通して、ヨーロッパ諸国の東アジア進出と東アジア諸国の状況、半植民地化や従属化の過程での抵抗と挫折、その中での日本の対応など、東アジアの大変動のようすを理解する。
	11	3部 現代の世界と日本	1 大衆社会の出現 2 世界を分割する帝国主義 3 世界の一体化と人口移動	・交通革命・マスメディアの発達・企業や国家の巨大化・社会の大衆化・公教育の普及と国民統合などを通して、20世紀の特質を把握する。 ・また、アジア・アフリカの植民地化をめぐる競争と人口移動から、世界の支配・従属関係を伴う一体化と社会の変容を理解する。
	12	第一次世界大戦がもたらしたもの	1 総力戦となった第一次世界大戦 2 ロシア革命と民族の問題 3 ウィルソンとヴェルサイユ体制 4 アメリカの繁栄と大戦後の列強	・第一次世界大戦と総力戦としての様相・ロシア革命とソヴィエト連邦の成立・戦争と革命による国際秩序の変化・アメリカの大衆生活とその波及を通して、20世紀初頭の変化の様相を理解する。
三	1	経済危機から第二次世界大戦へ	1 世界恐慌とローズヴェルト 2 ファシズムの台頭ーヒトラー 3 第2次世界大戦の拡大と戦争のおわり	・第二次世界大戦の原因や総力戦としての性格、それらが及ぼした影響を理解し、平和の意義などについて考察する。 ・また、20世紀前半の国際政治の流れを概観し、国際関係の変遷と社会の特質を理解する。
	2	冷たい戦争の時代～現在に続く世界の動き	1 新たな対立と協調の模索 2 ゆらぐアメリカと先進各国の変化 3 グローバル化する社会と経済 4 日本をとり巻くアジアの動き 5 ともに生きる世界を築くために	・冷戦終結後の世界の政治・経済の動向について理解するとともに、日本が世界の諸国・諸地域と多様性を認め合いながら共存する方向などについて考察する。
	3			

評価の観点・評価の方法	◎評価の観点			
	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用	知識・理解
	近現代史を中心とする世界の歴史に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追究するとともに、国際社会に主体的に生き国家・社会を形成する日本国民としての責務を果たそうとする。	現代社会の諸課題を歴史的観点から考察し、国際社会の変化を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。	近現代史を中心とする世界の歴史に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。	近現代史を中心とする世界の歴史についての基本的な事柄を地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解し、その知識を身に付けている。
◎評価の方法 「評価の4観点」に基づいた評価、授業中の発言、提出物の提出状況、定期考査の成績、出席状況を総合して評価する。				